

第6学年 社会科学習指導案

日 時 令和元年10月4日（金）公開授業Ⅱ

児 童 3組（男子22名 女子18名 計40名）

指導者 阿部 あゆみ

1 単元名「平和で豊かな暮らしをみざして」（小学社会6上 p138～139）

2 単元について

（1）教材について

本単元は、学習指導要領の第6学年の目標（1）「国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を育てるようにする。」及び（3）「社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」を達成することをねらいとして設定している。

この単元では、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解することをねらいとする。遺跡や文化財、地図や年表などの資料をもとに、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考えることをねらいとして設定した。

（2）児童の実態

本学級の児童は、6年生で初めて本格的に歴史学習に取り組むこととなり、概ね意欲的に取り組んでいるといえる。

5月に実施した社会科アンケートでは、社会科が好きだと答えた児童は全体の81パーセントであった。これまでの歴史の学習では、政治のあり方や文化や経済的な発展について、既習事項と関連させながら学習を進めてきた。社会の学習に意欲的に取り組む子どもたちがいる一方苦手としている子どもがいる。苦手として挙げているのは、語句の難しさによるところが大きい。

また、戦後の諸制度の改革や多くの人の努力によって、今日の日本があるという意識は子どもたちにはほとんどない。参政権や教育を受ける権利などの民主的な社会が当たり前のものになっており、政治に対する意識も高いとはいえない。よってこの単元を通して、民主的で平和的な国家は当たり前のものではなく戦後多くの人の努力によって確立されたものであること、社会に関わるのは一人一人なのだという認識をもたせたい。

（3）指導にあたって

本単元では、戦争で受けた被害の大きさや他国に与えた影響から、戦後日本がどのような社会をめざしたのか問題意識をもつところから始まる。戦後の諸改革の学習では、社会のしくみの変化を学び、日本が「民主的な国家」をめざしたことを捉えさせたい。日本の独立や東京オリンピック・パラリンピック開催の事例を通して、戦後日本の復興が敗戦から短い間で行われたこと、国際社会への復帰を

はたしたこと、そして高度経済成長を遂げて国民生活が急速に豊かになったことをつかませる。単元を通して、資料を読み取る基礎技能を高めるために写真、年表、グラフ、地図などの資料を状況に応じて視点を与えて読み取らせ、背景、経緯、結果をとらえさせたい。また、学習のまとめでは、戦後日本は近隣の国々と友好的な関係を築いてきたが、その一方で課題も多く残されていることをつかませ、レポートとしてまとめたい。レポートの交流を通して、現在やこれからの社会のあり方について考えさせたい。

この単元を通して、我々の今日の生活は当たり前のもではなく、戦争の厳しい生活から復興を成し遂げた頃の人々の努力があったことを考え、多くの人が平和を願いながら苦労や努力を続けたことが今の私たちの生活につながっていることを実感させたい。

3 単元の指導計画

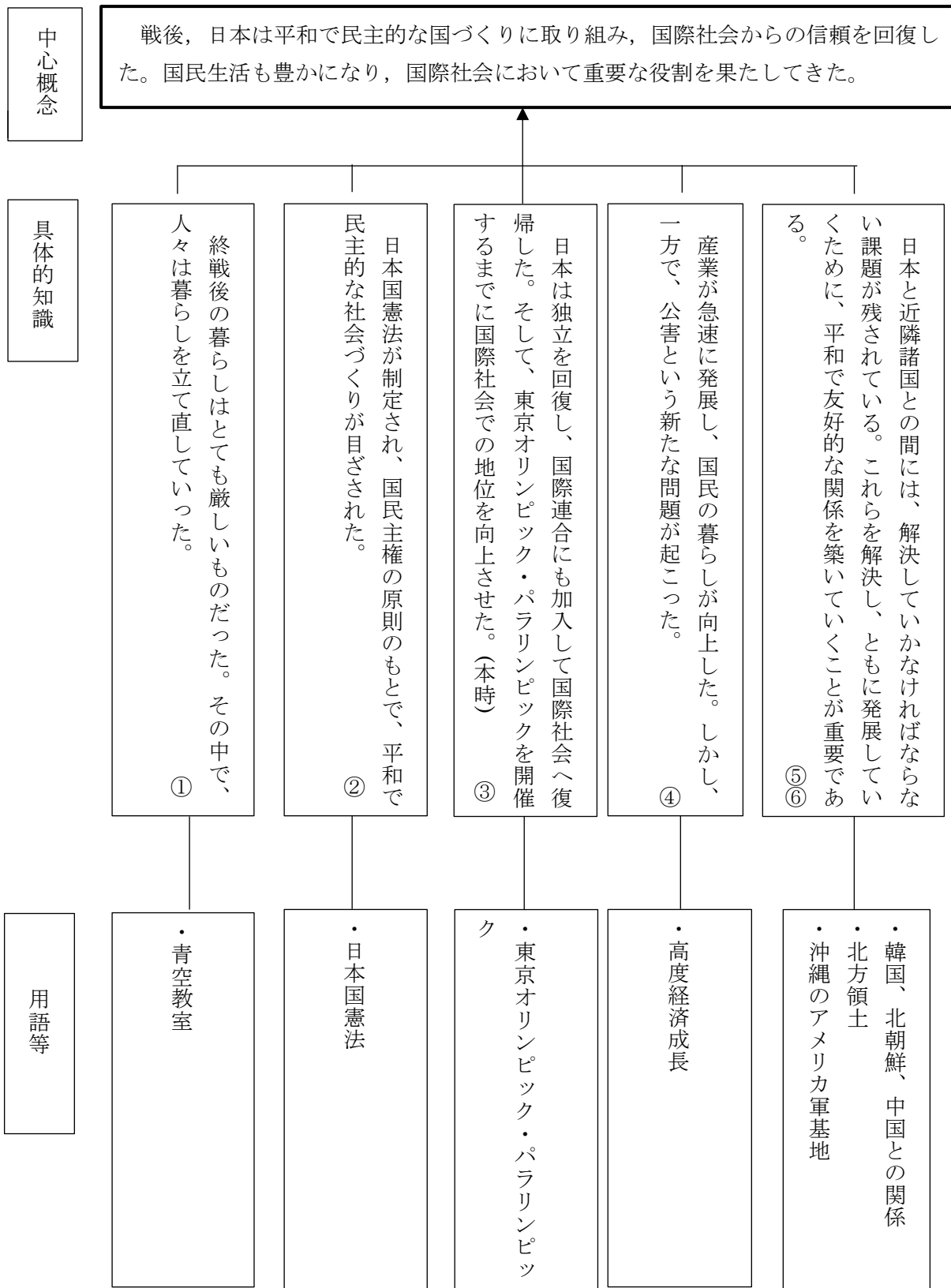
(1) 目標

日本国憲法の制定や東京オリンピック・パラリンピックの開催、高度経済成長などを通して、戦後、日本が平和で民主的な国づくりに取り組み、国際社会からの信頼を回復するとともに、国民生活の向上していったことを理解することができるようにする。

(2) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・戦後、人々がどのような願いをもち、どのような社会をめざしていったのかについて関心をもち、積極的に調べようとしている。 ・日本と近隣諸国との関係について、これからどのようにしていくのがよいのか考え、表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本の社会がどのように変わっていったのかについて学習問題を考え、表現している。 ・産業や経済の発展と、社会や人々の暮らしの変化とを関連づけて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の社会や暮らしの変化について、資料を読み取ったり身近な人から聞き取りをしたりして調べ、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法やさまざまな改革の内容をつかみ、戦後、日本が民主的な国家をめざしてきたことを理解している。 ・国民生活が向上したことや、国際社会の中で日本が重要な役割を果たしてきたことを理解している。

(3) 知識の構造図



(4) 単元の指導計画 (全6時間)

指導 過程	時	ねらい	○主な学習活動 【見方・考え方】	評価規準 (方法)
第 1 次	1 焼け跡からの 出発	戦争が終わった ころの暮らしの様 子や人々の願いを 調べ、戦後どのよ うな社会が目ざされ たのかについて調 べていく学習問題 を設定することが できるようにする。	○戦争は終わったが、人々の暮 らしは厳しいものがあり、そ の中で人々は暮らしを立て 直していったことを調べる。 戦後4度オリンピック・パラ リンピックが行われたこと 知り、単元の学習問題を設定 する。 【視点2 時間の経過～戦後 の変化】	【関】戦争が終わった ころの暮らしの様子 や願いに関心をも ち、進んで調べよう としている。(発言・ ノート)
戦争のあと、人々はどのように暮らしを立て直し、四度もオリンピ ック・パラリンピックができる国家を築いていったのだろう。				
	2 もう戦争はし ない	日本国憲法が制 定され、さまざまな 改革が進められて いく過程を調べ、日 本が目ざした新し い社会のあり方につ いて理解すること ができるように する。	○日本国憲法やさまざまな改 革を調べ、日本が目ざした国 家について話し合う。 【視点2 時間の経過～戦後 の諸改革】 戦争が終わって、日本の 社会はどのように変わっ ていったのだろう。	【知】日本国憲法やさ まざまな改革の内容 をつかみ、戦後、日 本が民主的な国家を 目指してきたことを 理解している。(発 言・ノート)
	3 日本の独立と 東京オリンピ ック・パラリ ンピック (本時)	日本が独立を回 復したことや東京 オリンピック・パラ リンピックが開催 されたことなどを 調べ、日本が国際社 会に復帰した過程 を理解することが できるようにする。	○日本が独立を回復したこと や東京オリンピック・パラリ ンピックが開催されたことな どを調べ、オリンピックの意 味について話し合う。 【視点3 事象や人々の相互 関係～国際社会における立 場の変化】 日本はどのようにして国 際社会に復帰し、オリンピ ック・パラリンピックを行 ったのだろう。	【知】日本が独立を回 復し、その後も東京 オリンピック・パラ リンピックを開催す るまでに国際社会で の地位を向上させて いった経緯を理解し ている。(発言・ノー ト)

<p>4 産業の発展と 国民生活の変 化</p>	<p>産業や経済が急速に発展した様子を調べ、それに関連して社会の様子や人々の暮らしがどのように変化していったのかを考えることができるようにする。</p>	<p>○産業や経済の発展と人々の暮らしの向上を調べ、これらのことをつなげて考え、経済の成長がもたらした変化について話し合う。</p> <p>【視点2 時期や時間の経過～人々の暮らしの向上】</p> <div data-bbox="703 524 1102 680" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>産業が発展するにつれて、人々の暮らしはどのように変化したのだろう。</p> </div>	<p>【技】資料を読み取ったり家の人から話を聞いたりして、経済が急速に発展したころの暮らしについて調べている。(ノート)</p>
<p>5 6 これからの日本とわたしたち</p>	<p>歴史の学習をふり返り、戦後の近隣諸国との関係や残された課題について調べ、現在やこれからの社会のあり方について考えることができるようにする。</p>	<p>○日本と近隣諸国との間に残された課題を知り、これからの社会のあり方や2020年のオリンピック・パラリンピックについて考えレポートにまとめる。</p> <p>○レポートの交流を通して、日本は近隣の国々とともに発展していくために、平和で友好的な関係を築いていくことが重要であることを話し合う。</p> <p>【視点1 位置や空間的な広がり～近隣諸国とのつながり】</p> <p>【視点3 時期や時間の経過～近隣諸国との関係】</p> <div data-bbox="703 1541 1102 1697" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>歴史の学習をふり返り、現在やこれからの社会のあり方について考えてみよう。</p> </div>	<p>【思】日本と近隣の国々との関係について、現在やこれからの社会でどうしていくことがよいかについて考え、表現している。 (レポート・発言)</p>

4 本時の指導（3／8）

（1）ねらい

- ・日本が独立したことや東京オリンピック・パラリンピックが開催されたことなどを調べ、日本が国際社会に復帰した過程を理解することができる。

（2）研究内容に関わって

【内容②】指導方法の工夫

- ・問題の追究の場面の最後に、導入時の信頼される国という観点に立ち返り、どんなオリンピック・パラリンピックであれば信頼される国家といえるのか発問することで、多くの人々の努力でオリンピック・パラリンピックが成功したことを考えさせたい。

【内容③】資料活用の工夫

- ・導入で2020年東京オリンピック・パラリンピックのロゴマークと1964年東京オリンピックのロゴマーク、パラリンピックのポスターを提示し、児童の興味関心を高める。それぞれのテーマを比較することで、世界に向けた思いがあることに気付かせ、他の国々に認められなければならないことに気付かせたい。

（3）展開

段階	学習活動 【見方・考え方】	指導上の留意点	資料等 ◇評価
問題の把握	1 オリンピック・パラリンピックのロゴマーク、ポスター、テーマ、から考える。 ・世界に向けた思いがあること ・外国との関係を変えなくてはならないこと 【視点3 事象や人々の相互関係～国際社会における立場の変化】 2 学習問題を設定する。	・オリンピック・パラリンピックのテーマについて考え、外国との関係が変わらなくては開催できないことに気付かせ、学習問題を設定させる。 【内容③】	・2020年東京オリンピック・パラリンピック、1964年東京オリンピックのロゴマーク ・1964年パラリンピックのポスター
8分	日本はどのようにして国際社会に復帰し、オリンピック・パラリンピックを行ったのだろう。		
	3 学習問題に対する予想をする。 ・戦争した国と和解した。 ・他の国に認められるように、経済を発展させた。 ・平和主義であることをアピールした。	・国際社会への復帰の観点で予想させる。 ・根拠を明確にしながら発表させるようにする。 ・既習事項を生かす。	

<p>問題の追究</p> <p>27分</p>	<p>4 社会の変化について調べ、ノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何年にどんなことがあったのか調べる。 <p>5 日本がどのようにして国際社会へ復帰していったのか話し合う。</p> <p>(1) 国際社会へ復帰の過程についてとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンフランシスコ平和条約 ・国際連合への加入 <p>(2) 国際社会へ復帰すると、どのような変化が起こるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の国へ行けるようになる。 ・貿易を行うことができる。 ・経済が発展する。 <p>(3) どのようなオリンピックにすることが信頼につながっていくのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際基準にあった競技場 ・正確なスターター ・選手を支える食事 	<ul style="list-style-type: none"> ・独立することの意味について理解させる。 ・国際社会への復帰によって経済力が高まり、オリンピックの開催へ至ったことをつかませる。 ・数人の人の話をもとにオリンピック・パラリンピックにたずさわる人々がどんな思いで関わったのか発問し、つかませたい。 <p>【内容②】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 P138～P139 ・サンフランシスコ平和条約締結時（写真） ・平和条約のおもな内容 ・日本経済の復興（グラフ） ・当時の人の話
<p>まとめ</p> <p>10分</p>	<p>6 本時の学習を振り返り、まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日本は、平和条約を結んだり、国際連合に加盟したりして、世界の国々に認められ、平和の祭典であるオリンピック・パラリンピックを開催した。</p> <p>私はオリンピックは当たり前のことで、楽しいスポーツの大会だと思ってきました。でも今日の学習で、世界の国々に認められるために多くの人々の努力があったことが分かりました。2020年に向けて私も何かやってみたいです。</p> </div> <p>7 次時の学習内容について確認する。</p>		<p>〈支援〉</p> <p>黒板を手がかりに書くことを示す。</p> <p>◇ 【知】日本が独立を回復し、その後も東京オリンピック・パラリンピックを開催するまでに国際社会での地位を向上させていった経緯を理解している。（発言・ノート）</p>

(4) 板書計画

2020
東京オリンピック
パラリンピック
ロゴマーク

1964
東京オリンピック
ロゴマーク

1964
パラリンピック
ポスター

復興

復興

世界の国々
信頼される国家
世界に認められる

日本はどのようにして国際社会
に復帰し、オリンピック・パラリン
ピックを行ったのだろうか。

予想

- ・戦争した国と和解した。
- ・他の国に認められるよう
に、経済を発展させた。
- ・平和主義であることをア
ピールした。

サンフランシスコ
平和条約

平和条約の内容

1951年 サンフランシスコ
平和条約

→日本の独立を回復

1956年 国際連合加盟

→国際社会へ復帰

- ・他の国へ行けるようになる。
- ・貿易が盛んになる。
- ・経済が発展する。

日本経済の復興
(グラフ)

1964年 アジアで初めて
東京オリンピック・パラリンピック
開催

日本は、平和条約を結んだり、国際連合に加盟したりして、
世界の国々に認められ、平和の祭典であるオリンピック・パラ
リンピックを開催した。